

2. 農村とボランティアをIT技術でつなぐ援農支援ネットワークシステム

[要約]携帯電話や自宅のパソコンから、インターネットを経由して、日程調整、作業内容調整、人数の過不足調整を行うシステムにより、都市の住民が、農作業を手伝いつつ、農業を支援し、農地保全に繋げていく「援農ボランティア」の円滑なコーディネートを行うことができる。

農業工学研究所・農村計画部・地域計画研究室		区 分	技術及び行政
連絡先	029-838-7549, youken@affrc.go.jp	分 類	普及

[背景・ねらい]

近年、都市の住民が、農作業を手伝いつつ、農業を支援し、農地保全に繋げていく援農ボランティアの試みが、広まりつつある。しかしながら、その日程調整や作業調整といったコーディネートが必ずしも円滑に行われておらず、必要な農家に、必要な数のボランティアが派遣されているわけではないという問題がある。そこで、農家とボランティアの双方から、携帯電話や自宅のパソコンから、インターネットを経由して、リアルタイムで、援農ボランティアの日程、作業の調整、人数の過不足調整を行えるシステムを開発した。

[成果の内容・特徴]

1. 農家、ボランティアは、それぞれ、自宅のパソコンや携帯電話から、パスワード管理されたサーバーに、インターネットによりアクセスする（図1）。サーバーにはスケジュールに関するデータベース、登録者に関するデータベースが蓄積され、スケジュールは随時自動的に更新される。
2. 農家側画面（図2）では、ボランティアを募集する作業内容（日程、時間、集合場所、作業種、人数等）の新規登録、作業の修正、中止の連絡、応募してきたボランティアへの依頼の確定ができる。
3. ボランティア側画面（図3）では、1ヶ月先までの農家側の募集リストを閲覧することができ、それぞれの都合にあわせて応募する。
4. ボランティアからの応募があると、農家にメールで通知され、農家が画面上で依頼の確定を行うことにより、依頼が成立する。

[成果の活用面・留意点]

東京都国分寺市、国立市のボランティア・グループによる実用テストを行い改良を行った後、モニター・アンケート（2004年11月、n=23）を実施したところ、極めて良好な評価を得た。なお、システムの運用においては、公的機関、団体、NPO等によるサーバーの管理が必要である。

試作版 URL：<http://enno.jp>

[具体的データ]

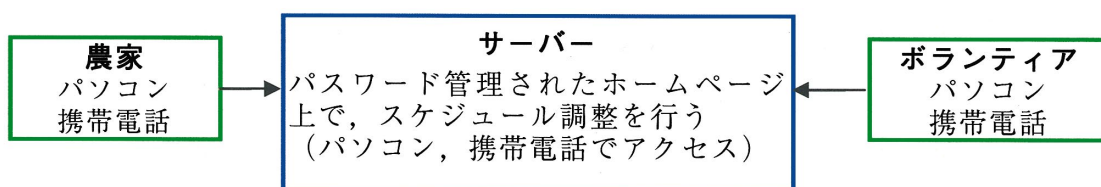


図 1 システムの概要

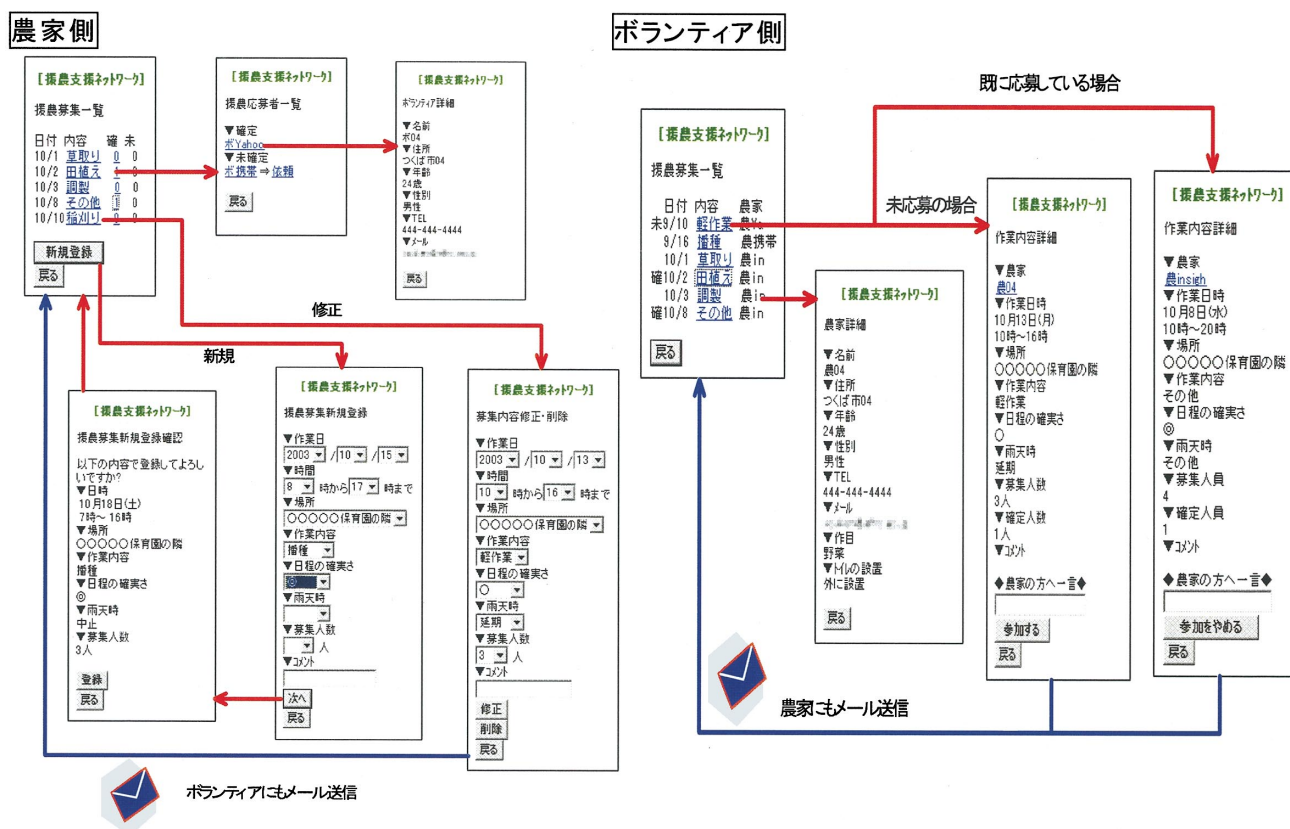


図 2 農家側画面

図 3 ボランティア側画面

[その他]

研究課題名：新たな流域圏環境管理方式の解明と支援手法の開発

中期計画大課題名：農業・農村及び事業における多面的機能の評価手法の開発

予算区分：委託プロ [自然共生]

研究期間：2002～2006年度

研究担当者：八木洋憲、福与徳文

発表論文等：1) 八木洋憲・福与徳文、「サービス調整システムおよびその方法」特許出願 2005-004523.

2) 八木洋憲，援農ネットワークシステム実施上の課題，子育てしやすい環境づくりや地域間の多様な交流活動等を通じた地域づくりに資する調査研究-平成16年度農村生活総合調査研究事業報告書③-，pp.61-74，2005.